

暹州天(圖)書館

日本文法教科書

共 / 册 存 / 册 排架号 06182

緒言

書大病二、一曰浩繁、窮年盡力而業不終、一曰散漫、尋端索緒而要不得、茲書分類立表、表各舉例、而附識別於後、不繁而賅、不散而要、事逸而功速、誠學東文之惟一簡便法門也。

學東文而不能作東文、得其影響而原理則未也、作文之法、在研究各種詞之變化、連續、與語句組織之律、或者粗解假名、而語尾接法、概置不理、無怪譯出之本、多與原書支牾、茲書力矯其弊、於文法之關係、纖悉詳盡、如能悉心研究、作文自有根據、讀書譯本、猶其餘事耳。

日本音韻、有轉呼連聲約音延音畧音音便諸類、或卽中國反切、或卽西人合音、吾輩精於中西音學者、固不乏人、而不精者、亦復不少、嘗見東文學生、讀文典開端音韻一章、輒欲廢而罷去、蓋亦一重阻礙進步之門也、茲書本有中西東音韻比例、將

轉呼諸類消納其中仍恐阻人所難刪出另刊非疏漏也  
例證語句多從東書錄出常有在東文為佳句在漢文為不通者所註漢語又依原  
文直譯故不免支離累贅之病然非如是不足以證明文法也  
文法書不過述其規矩耳巧者為之不為規矩所拘故東書中各詞連續不無出於  
立成表外閱者如摘取一二以警議本書非作者所敢許也

日本文法教科書目錄

字母

平假名

片假名

濁音

半濁音

新濁音

撥音

促音

行列

音韻

父母音與子音之區分

父母音音標

子音音標

中西東字母比較

拗音

字體

平假名體

片假名體

合字

重字

和字

新字

言詞之種類

名詞

種類

品格

代名詞

種類

四格稱呼

四格指示

動詞

種類

變化活格

動作性格

形容詞

溫州

種類

變化活格

助動詞

種類

變化活格

助動詞與動詞連續

助動詞與助動詞連續

助詞

種類

助詞與名詞連續

規則連續

不規則連續

助詞與動形助動詞連續

分析連續

統合連續

副詞

種類

用法

接續詞

種類

用法

感動詞

種類

感動詞與他種詞連續

溫水

接詞

接頭語

接尾語

文章之組織

排列法

係結法

重言法

叙述法

文章之解剖

文章之句讀

句法

讀法

直譯之例

文學之渡來

留學生

溫州

日本文法教科書目錄終

日本文法教科書

字母

平假名

あ	か	さ	た	な	は	ま
い	き	し	ち	に	ひ	み
う	く	す	つ	ぬ	ふ	む
え	け	せ	て	ね	へ	め
お	こ	そ	と	の	ほ	も

字母

Handwritten characters in the middle section, including '温' and '知'.

片假名

瑞安林公任仲伊編輯



カ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	モ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

Large area of the right page containing faint, mostly illegible handwritten text and a large dark smudge.

也  
ゆ  
江  
よ  
り  
る  
れ  
ろ  
わ  
る  
う  
ゑ  
ま  
又  
イ  
ユ  
エ  
ヨ  
ラ  
リ  
ル  
レ  
ロ  
ワ  
井  
ウ  
エ  
ナ

假漢字草書曰平假名唐時求法僧空海所作假漢字偏旁曰偏片假名唐時留學生吉備真備所作

五十字母中有イハエ三字重出實止四十七字

濁音

バ	ダ	ザ	ガ	ガ
ビ	ヂ	ジ	ギ	ギ
ブ	ヅ	ズ	ク	ク
ベ	デ	ゼ	ケ	ケ
ボ	ド	ゾ	コ	コ

半濁音

パ  
ピ  
プ  
ペ  
ポ

新濁音

ハ  
ヒ  
フ  
ヘ  
ホ

假名上加二點者為濁音加一圜者為半濁音近因拼讀西書原有之清濁音不足於用又於ハ井ウエナ五字上加二點為新濁音

ガキグケゴ五字久已沿用二點其用法常在語中語末不用於語首

撥音 即鼻音

ん 平假名  
ン 片假名

ン字為ノ字之變其音不能獨立必附於他音之末與英文ハ字在有音字前讀若納在有音字後讀若痕同一道理平假名之ん乃假英字非假漢字也例如イン即音字シン即心字等等因其從鼻發聲又曰鼻音或謂ン音



從△音變化而出又一說也

促音

フ 平假名

ツ 片假名

促音亦不能獨立必中立於他兩音之間而偏於右側或於右肩加一點作識讀法用舌抵齒而不出聲與英文之吐相似如モツトモ最マツタシ全等々ツ字不讀其音而讀其氣

行列

縱讀爲行橫讀爲列

阿列伊列宇列表列於列

清	阿行	ア	イ	ウ	エ	オ	喉音
	加行	カ	キ	ク	ケ	コ	齶音
	左行	サ	シ	ス	セ	ソ	齒音

音	多行	タ	チ	ツ	テ	ト	舌音
	奈行	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	舌音
	波行	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	輕唇音
	末行	マ	ミ	ム	メ	モ	重唇音
	也行	ヤ	イ	ユ	エ	ヨ	喉齶音
	良行	ラ	リ	ル	レ	ロ	舌齒音
	和行	ワ	ヰ	ヱ	ヲ	ン	喉唇音

濁	加行	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	齶音
	加行	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	齶音
	左行	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	齒音
	多行	ダ	ヂ	ヅ	デ	ド	舌音
	波行	バ	ビ	ブ	ベ	ボ	重唇音

新	波行	パ	ピ	プ	ヘ	ホ	重唇音
和	行	ワ	ヰ	ヱ	ヰ	ヱ	輕唇音

凡字母同行者必同音如アイハエオ皆爲喉音カキクケコ皆爲齶音是  
 同列者必同韻如カサタナ等々同韻キシチニ等々同韻是  
 波行字古屬唇部故變爲濁音與半濁音而部分不改觀假名真體見下皆  
 係唇音字愈無可疑後因出唇輕微因便轉喉人遂以爲喉音與和行通用  
 末行以上爲獨音也良和行爲兼音由內而外由單而複音界濶然也和兩  
 行喉爲主音故與阿行通用新濁音因和行兼音而轉也

音韻

父母音與子音之區分

父音	與ハ同列之十六音
母音	阿 行 五音
半母音	也行五音和行五音
子音	阿行外之各行音

阿行爲單純喉音雖引長而不變如アハイハ其餘各行一引長其音  
 卽變而歸於阿行之同列如カハアキハ是故阿行爲母音其餘各行爲  
 子音凡引長假名之音皆用ハ爲符號  
 也行兼齶和行兼唇合子音之格其主音在喉合母音之格故既爲子音又  
 爲半母音









新字者

近代日人，以西書中新器新語，有為漢字所不能譯者，添著漢體之字而譯之也。畧舉如左。

- ノートル 適當 法尺
- キロメートル 千適當
- リットル 十分適當之一
- キロリットル 千利德路
- グラム 百分利德路之一
- デカグラム 十古拉母
- センチグラム 十分古拉母之一
- マイル 英里
- フット 三分碼之一
- モン 日本重量
- チカイートル 十適當
- デシメートル 十分適當之一
- リットル 利德路 法升
- キロリットル 千利德路
- グラム 百分利德路之一
- デカグラム 十古拉母
- センチグラム 百分古拉母之一
- メトリック 八十分英里之一
- グラム 英重量
- ハカイートル 百適當
- キロメートル 百分適當之一
- リットル 十利德路
- デシリットル 十分利德路之一
- グラム 古拉母 法升
- デカグラム 十古拉母
- センチグラム 千分古拉母之一
- メトリック 二十二分鎖之一
- オンス 英重

### 言詞

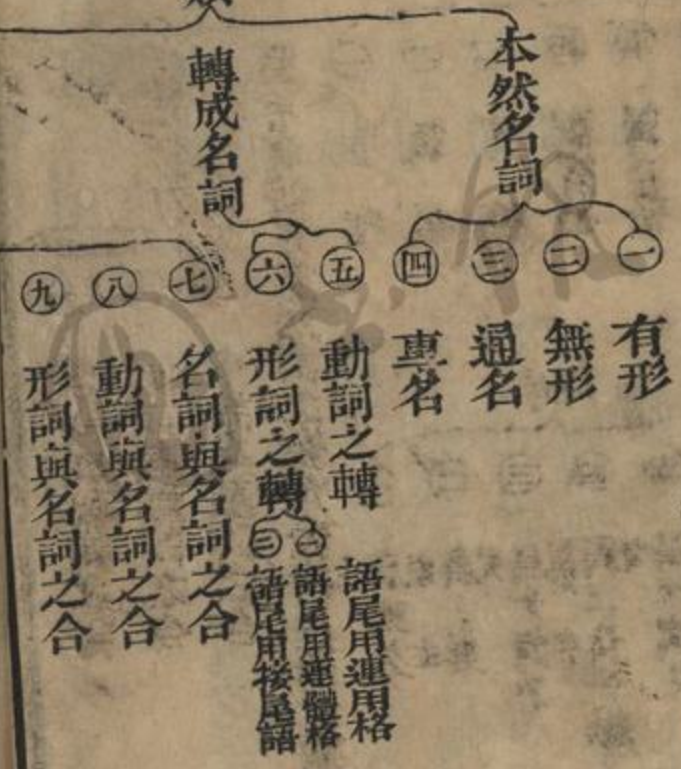
### 種類

- 名詞
- 代名詞
- 動詞
- 形容詞
- 助動詞
- 助詞
- 副詞
- 接續詞
- 感動詞
- 接詞

指稱名物而語無變化者，曰名詞。代名詞，通謂之體言。動作形狀其名物，而語有變化者，曰動詞。形容詞，通謂之助言。添於動詞之下，而輔其動作者，曰助動詞。變化與用言同，添於體言用言助動詞之下，成為語句者，曰助詞。加於體言用言之上，成為語句者，曰副詞。接上下語句之氣者，曰接續詞。加於語句之起末，描寫其嗟嘆噫嘻之口吻者，曰感動詞。接於他詞之上下，成一體言用言或副詞者，曰接詞。自助詞以下無變化。

# 名詞

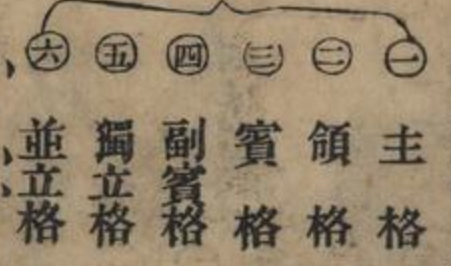
## 種類



## 例

- ① 山川草木等々
- ② 心志年時等々
- ③ 洲國等々
- ④ 歐亞英俄等々
- ⑤ 教讀喜等々
- ⑥ 重厚深等々
- ⑦ 墨盒書架等々
- ⑧ 講堂學生等々
- ⑨ 白紙黑版等々

## 品格

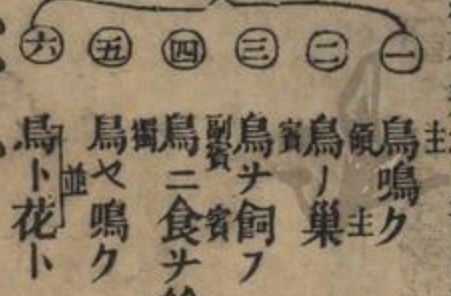


## 合成名詞

連用連體見動形詞之變化表接尾語見接詞



## 例



- 鳥鳴
- 鳥之巢
- 飼鳥
- 給食於鳥
- 鳥乎鳴
- 鳥與花

ノ之也、倒裝詞、二於也、又乎也、有特呼意、ト與也、動詞下之假名、見下變化表、此處可暫置勿理、下代名詞同。



代名詞

種類



呼稱格四

尊敬	通常	自稱我	對稱汝	他稱彼	不定稱誰
マツガレ	ワレ	ワレ	ナレ	カレ	タレ
オマヘ	ナムチ	オカタ	オカタ	オカタ	ドナタ
オノレ	ヲシ	ヲオカタ	ヲオカタ	ヲオカタ	
アノタ					

義爲彼方、ドナタ、本義爲何方是也、第一格爲自謙語、對於人爲尊敬、

通常四稱、語首皆阿列字、是爲正格、尊敬四格、無一定之列、且多借用他種代名、如アナタ、本

示指格四

事物	處所	方向	近稱此	中稱其	遠稱彼	不定稱何
コレ	ココ	コナタ	コレ	ソレ	カレ	ドレ
ソレ	ソコ	ソナタ	ソレ	ソコ	カレ	ドレ
カレ	カシコ	カナタ	カレ	カシコ	カレ	ドレ
カレ	カチ	カナタ	カレ	カチ	カレ	ドレ
ドレ	ドコ	ドナタ	ドレ	ドコ	ドレ	ドレ
ドレ	ドチ	ドナタ	ドレ	ドチ	ドレ	ドレ
ドレ	ドツコ	ドナタ	ドレ	ドツコ	ドレ	ドレ
ドレ	ドナタ	ドナタ	ドレ	ドナタ	ドレ	ドレ
ドレ	ドナタ	ドナタ	ドレ	ドナタ	ドレ	ドレ

- 例
- 一 我 汝 誰 彼 似ル
  - 二 彼 汝 誰 似ル
  - 三 此 彼 何 先生、デス
  - 四 其處 彼處 近シ
  - 五 其方 後方

力耶也、ハ、這頓詞、デス、敬詞、ヨリ、自也、ラム、推量詞、動形詞下之假名、見下變化表

我與汝誰耶似於彼  
彼是我之老師  
此與彼何者爲大  
其處近於彼處  
自其方來耶自彼方來耶

レ、指示事物之詞、指示處所之詞、與ナタ、指示高之詞、於各種指示詞上、加コ字爲近稱、加ソ字爲中稱、加カ字爲遠稱、加ド字與イ字爲不定稱、中或添シ字、ツ字者、有之字意、



每行舉一動詞爲例，如咲押分飛讀去等々，動詞旁之假名謂之語幹，六格之假名謂之語尾，語幹與語尾合成一字，語幹不變而語尾變其變化之例，如左

方

將然格 花咲カバ見ニ行カム 燃  
花開則將往看

連用格 花咲キ遲シ 讀用信  
花開遲

終止格 花ハ今日咲ク 體言  
花今日開

連體格 花サ咲ク木 連體格  
開花之樹

已然格 花咲ケバ人ノ訪ヒ來ル 命令  
花開故人來訪

命令格 花ハ早ク咲ケ 命令  
花快開麼

語尾變化，動詞下有有用言，用連用格，動詞下有體言，用連體格，語氣已完者，用終止格，未來語用將然格，過去語用已然格，有命令意者，用命令格，八字接將然格，訓則接已然格，訓故ム有將字意ノ指定詞。

例

凡兩動詞連用，多讀漢音，單字亦有讀漢音者，其語尾皆用左行變格。

例 讀和音 單字 讀ム 書ク  
讀漢音 讀ス 書ス 雙字 讀ミ 書ク

ヨムカク日本之國音，其語尾夕爲四段活，非左行變格，トク反切，即漢音讀字，シヨ反切，即漢音書字，其語尾夕爲左行變格，書寫也，動詞非名詞。

凡四段活之連用格與助詞之テ，良變動詞之アリ相連，則用省約法，其語尾仍用良行變格。

例 咲キテアリニ咲ケリ 約爲省活  
押シテアリニ押セリ 約爲省活  
活格 一格 二格 三格 四格 五格 六格 二等號也

凡數事連舉，前數個語尾用連用格，末個語尾用終止格。

例 人モ行キ我モ行ク 連用  
父トモ思ヒ師トモ仰ク 連用  
人亦行，我亦行，  
父亦思，師亦仰，  
ト指定詞，  
モ亦也。

凡連體語尾下不接體言必省去コト程ニトキ等字

益ナ得ルコト多シ

省之即

益ナ得ル多シ

得益事多

例 月ト見ル程ニマデ

月ト見ルマデ

至於看月之時

凡動詞作名詞用其語尾用連用格與名詞參看

例 教ヘテ受ク

怒リテ發ス

受教

發怒

動作性格

性格之區別

一	尋常動	自動	動詞下無助動詞者曰尋常動能受使動皆於動詞下添助動詞動作爲自己力量所能曰能
二	能動	自動	動受他人之動作曰受動使他人動作曰使動
三	受動	他動	一動作事使之者人而受之者我曰受使動動作不及他物者謂之自動及於他物者謂之他動
四	使動	自動	
五	受使動	他動	

例

一	自風ガ吹ク	自	風吹	水流
二	他花ヲ折ル	他	折花	飲酒
三	自鳥ガ飛バル	自	鳥能飛	馬能馳
四	他牛ガ車ヲ轆カル	他	牛能轆車	人能馭馬
五	他友ニ正サル	他	受正於友	受教於師
六	自疾ク行カス	自	使疾行	使早起
七	他兄ニ弟ヲ愛マス	他	使兄愛弟	使弟敬兄
八	自勤ミ動カセラル	自	使我勤動	使我勉勵
九	他父ニ書ヲ讀マセラル	他	父使我讀書	父使我作文

能受使皆助動詞助動詞與動詞接法見下此處可暫勿理カ指定詞第五

一動詞具有自他兩性者其音讀不同變化各異

形容詞

例 自 月ガミエ  
他 月サミル

花ガオツ 月現 花落  
花ヲオトス 看月 落花

讀法 二五六  
ミ上二段也行 才上三段多行  
ミル上二段未行 才上四段左行

形容詞

種類

變化活格

- ① 時候 早シ遅シ久シ暫シ等々
- ② 場處 遠シ近シ高シ低シ等々
- ③ 分量 多シ少シ難シ易シ等々
- ④ 形體 小シ大シ厚シ薄シ等々
- ⑤ 狀態 黑シ白シ寒シ熱シ等々
- ⑥ 性質 善シ惡シ貴シ賤シ等々
- ⑦ 感情 悲シ嬉シ苦シ樂シ等々

久 活	善ヨク	ク	シ	キ	ケレ
志久活	多シク	シク	シ	シキ	シケレ

第一變化 第二變化 第三變化 第四變化 第五變化  
將然格 連用格 終止格 連體格 已然格

右二活古人以為音雜活蓋動詞變化認定一行不雜他行之音此則由加左二行相錯而成

例

將然格

心善クバ行ヒモ亦正シカラム

心善則行亦應正

連用格

心善ク存ズ

心善存 行正修

終止格

心ハ善シ

心善 行正

連體格

心善キ人

心善人 行正之人

已然格

心善ケレバ行ヒモ亦正シカリタリ

心善故行亦正

行ヒ作名詞用 正シカラテ 正シカリ見下タリ過去詞

凡形容詞之連用格必為副詞故又名副詞法如右例善ク正シク副於存修

二字之上者是也再舉二例如左 詳見副詞

例① 高ク昇ル連用助 全ク無シ連用形 一例副於動詞之上三例副於形容詞之上而  
樂シク思フ連用助 甚シク寒シ連用形 第一句爲久活副詞第二句爲志久活副詞

凡形容詞之連用格與良變動詞之アリ相連則用約法其語尾變化仍用良行變格

例 善カアリ約法ニ善カリ活 活格 善カラカリカリ カルカレカレ  
正シクアリニ正シカリ活 正シカラシカリシカリシカレシカレ

凡形容詞與助動詞不相連續必添アリ於連用格下而約之始可接助動詞接法與良變之動詞同

例 善カラ州不不善 善カリ州ヲム 應善  
正シカラム將 將正 正シカリ州タリ 已正 不應將已皆助動詞

凡數事連舉前數個語尾用連用格末個語尾用終止格

例 山高連用海深終止 山高海深  
日美連用シク風涼終止 日美風涼

形容詞有下接體言而不用連體之語尾者

例 高山體言 遠野體言  
巖體言シ鋒 空體言シ車

形容詞作名詞用其語尾用連體格 與名詞參看

例 黒キト白キトナ別ツ 別黒與白  
善キナ好キ惡シキナ惡ム 好善惡惡

形容詞之語尾有不用變化活格而用接尾語之ヲ州カ列者亦可作名詞用

例 林ノ深接尾ニ入ル 入於林之深處  
水ノ清接尾ヲニ濯ク 濯於水之清處  
千里ノ遠接尾ニ行ク 行於千里之遠  
山ノ静接尾カナ愛ツ 愛山之靜  
冬ノ寒接尾ゲナ禦ク 禦冬之寒

# 助動詞



第類	第一類	類	第二類	類	第三類	類	第四類	類
能動	動レ	動レ	動レ	動レ	動レ	動レ	動レ	動レ
使動	使セ	使セ	使セ	使セ	使セ	使セ	使セ	使セ
受動	受レ	受レ	受レ	受レ	受レ	受レ	受レ	受レ
使受	使受レ	使受レ	使受レ	使受レ	使受レ	使受レ	使受レ	使受レ
動斷	動ナリ	動ナリ	動ナリ	動ナリ	動ナリ	動ナリ	動ナリ	動ナリ
定	定タリ	定タリ	定タリ	定タリ	定タリ	定タリ	定タリ	定タリ
否	否ズ	否ズ	否ズ	否ズ	否ズ	否ズ	否ズ	否ズ
推量	推ル	推ル	推ル	推ル	推ル	推ル	推ル	推ル
第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一
第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二
第三	第三	第三	第三	第三	第三	第三	第三	第三
第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四
第五	第五	第五	第五	第五	第五	第五	第五	第五
第六	第六	第六	第六	第六	第六	第六	第六	第六
第七	第七	第七	第七	第七	第七	第七	第七	第七
第八	第八	第八	第八	第八	第八	第八	第八	第八
第九	第九	第九	第九	第九	第九	第九	第九	第九
第十	第十	第十	第十	第十	第十	第十	第十	第十

助動詞

三十一

助動詞之動作性格參看  
第一類 與動詞之動作性格參看

受使動爲使動各行之將然格與受動之ラル各格相拼，  
凡欲提出助動詞之某行，必舉其終止格爲代表，右受<sub>レ</sub>之ラル，即指受動

之第二行也。

第二類

斷定之ナリタリ，皆指定解說之詞，有爲字也字意，惟ナリ可通接於名詞動

詞形容詞，タリ止可接於名詞，而與動詞形容詞不能接。

否定之ズ與ザリ在斷定後爲斷定之否定，直作不字解，マジ與ジ在推量前

爲推量之否定，マジ作應不解，ジ作未必解。

推量之ラム爲未來之推量，應如此也，メリラシ爲現在之推量，メリ乃見工

アリ之約見事物而推量其狀也，ラシ似乎也，過去之推量，即第三類中推量

之過去，ベシ有二義，作可字解者，近於斷定，作當字要字解者，近於命令。

第三類

動作分現在過去未來三時，凡尋常動及能受使等動，其語尾用終止格結者，  
爲現在之動作，語尾之下接過去未來之助動詞，爲過去未來之動作。

過去又分三時，第一過去，表動作甫終，或尙在將終未終之間，故亦曰半過去。

第二過去，比第一過去爲時稍遠，第三過去，則更遠一程，又稱大過去，第三過

去，即第一過去之連用格テニタリ，與第二過去之ケリキ相拼。

推測其動作當爲過去，而實未來者，爲推量之過去，亦分三時，前三種過去，對

推量言，可爲斷定之過去。

推量之第一過去，於第一過去之將然格テナタラ之下，添未來之ム。

推量之第二過去，於第二過去之終止格ケリキ之下，添未來之ム。

推量之第三過去，即第一過去之連用格テニタリ，與推量之第二過去ケム

相拼。



茲將諸過去滙為一表，補前表所未備。

第一 第二 第三

斷定之過去

推量之過去

ツ	ケリ	テケリ	キ	ニケリ	タリケリ
タリ	キ	タリケリ	タリケリ	タリケリ	タリケリ
ナム	ケリム	ニケム	タリケム	タリケム	タリケム
タレム	タレム	タレム	タレム	タレム	タレム

變化

斷定第三 = 斷定第二  
推量 = 未來

連續

斷定第三 } 斷定第二  
推量第一 }  
推量第三 }  
推量第二 = 斷定第二

連續二表畧

第一過去之ツ多連於他動詞，又多連於自動詞，タリ為ツ之連用格，テ與アリ之約，故與ツ同用。

未來者，動作未起而預言其未然或將然之意。

過去未來各有終界，自未來向於現在，至推量之第一過去，為未來之終，自現在向於過去，至第三過去，為過去之終。

第四類

希望之ナム，願欲也，又有吩咐之意，タシ本形容詞，連於動詞，則為希望詠歎之ナリケリ，本句末感詞，因其語尾有變化，附列於此。

比況之ゴトシ，如也，若在動詞下，與連體格接，在名詞下，用ノガ二助詞連之。

助動詞與動詞連續

動詞	四段 能動之ル 使動之ル 將 變良變 使動之ズ 二段一段 能動之ラル 使動之ガス 然 加變左變 受使動之サセラル 使動之シム 受使動之シラル	格 一切動詞 否定之ム 希望之ナム	連用 第一過去之ガリ 第二過去之キリ	格 用 一切動詞 希望之タシ 評歎之テリ	止格 一切動詞 否定之ズ 推量之ラム	連格 一切動詞 斷定之ナリ 比況之ゴトシ	體 長行變格 否定之ズ 推量之ラム	格 燃 四 詠歎之ナリ 第一過去之ガリ 第二過去之キリ
----	---	-------------------------	-----------------------	----------------------------	--------------------------	----------------------------	-------------------------	-----------------------------------

例如左

第一類

能 受動 人ヲ治メラル  
使 使動 人ヲ治メサス  
能 受動 人ヲ治メラル  
使 使動 人ヲ治メサス

第二類

斷定 我ハ書ヲ讀ムナリ  
否定 我ハ書ヲ讀ムナリ  
推量 彼ハ書ヲ讀ムナリ  
汝ハ書ヲ讀ムナリ

第三類

過去 業ヲ畢ヘタリ  
過去 業ヲ畢ヘタリ  
過去 業ヲ畢ヘタリ  
過去 業ヲ畢ヘタリ  
過去 業ヲ畢ヘタリ  
過去 業ヲ畢ヘタリ  
過去 業ヲ畢ヘタリ  
過去 業ヲ畢ヘタリ

第四類

詠歎 アレハトノ月ニ旋リテ  
詠歎 歸ルナリ  
比況 歲月ハ流ルコトシ  
歲月如流

假名旁加一直者皆助動詞、寡力ヲ爲  
寡クアラ之約見形容詞ナ而也第一  
類之例參看動詞之動作性格

動詞	治 下二段 未行	讀 四段 未行	畢 下二段 未行	歸 四段 未行	流 下二段 未行
----	----------	---------	----------	---------	----------









量分

體助動	連形動	止助動	終助動	用助動	連形動	動
ヨリ	スラ	タニ	バカリ	ヨリ	スラ	タニ
マデ	サヘ	クモ	ノミ	マデ	サヘ	クモ

例

體格	接連	止格	接終	用格	接連
助動	形動	動	動	助動	形動
德アラザル	好キノミ取ル	思フノミナリ	歎クバカリナリ	言テノミカルベキカ	悲シキノミ思フ
惟不德是懼	惟好是取	惟思而已矣	惟歎而已矣	惟不言可乎	惟思可悲
					惟使歎耳

三

強詞 禁止 命令

連體動	用助動	連形動	連助動	將然動	連體動	終止助動	已然動	連用動	然助動	將助動
動	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動
詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞
シ		ナリ	ナ					ヨ		

例

命令見動詞助動詞之變化表

強詞	禁止	命令見動詞助動詞之變化表
歎キシマサル	接連用格	接終止格
増歎	ナ自欺キゾ	我ナ恨ムナ
	母自欺	勿恨我
		母畏
		勿來

マサル増也

義ナリ勿

疑問

反動

連用格 助動	終格 助動	已格 助動	然格 助動	連用格 助動	終格 助動	已格 助動	然格 助動
體助	體助	體助	體助	體助	體助	體助	體助
動	動	動	動	動	動	動	動
容	容	容	容	容	容	容	容
詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞
夕	カ	モ	モ	カ	モ	モ	モ

疑問 例

接連用格 助動 之ヲ求メヤ  
コレホドノ甚クモコトシ 求是其甚與  
助動 聞エ得ベクヤ 可得聞乎  
天ナ欺クカ 欺天乎  
得木ク簡シヤカラザリ 母乃大簡乎  
助動 未ダ言フベシヤザリ 未可以言與  
豈コレト云ヒヤ 豈謂是與  
接連用格 助動 木ク急クヤハカラス 不以急乎  
詩ニイヒカラザリヤモ 詩不云乎  
イ、ツレモノ我ニアルカモ 何有於我哉  
何ソ難シヤハアリ 何難之有哉  
君見ズヤ 君不見乎

反動 例

接連用格 助動 何ソ難シヤハアリ 何難之有哉  
君見ズヤ 君不見乎  
ホ、ト程也コレホド猶言這樣也イヒ云也モ、人、有者字意終  
連體、爲、カ異用之異故對舉爲例、反動也字上、常有、モ、蓋、異  
語也例如況ヤコレモ言ハムヤ、即況言此乎而畧去言ハム字

五

接 續

將形 助動	然助 動	終助 動	止助 動	已助 動	然助 動
形	助	助	助	助	助
容	容	容	容	容	容
詞	詞	詞	詞	詞	詞
ク	ク	ク	ク	ク	ク

接 續 例

接將格 助動 難クトモ遂ゲム 雖難亦遂  
然格 助動 法ルクトモ傳ルカラス 雖可法而不可傳  
接終格 助動 磨クトモ磷カス 雖磨不磷  
止格 助動 中セトモ遠カラサルム 雖不中亦當不遠  
接已格 助動 逐ヘトモ去ラス 雖逐不去  
然格 助動 美ケレトモ瑕アリ 雖美而有瑕  
助動 悔イタレトモ追ヘカラス 雖悔而不可追  
助動 酌ムトモ盡カス 雖酌而不盡  
助動 殺ガルトモ怨セズ 雖見殺而不怨



⑥

義 續 接

體	連	用	連	然	已	然	將
助	形	助	形	助	助	助	助
動	容	動	容	動	動	動	動
詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞
ガ	ナニ	テ					バ

テ	バ
而	已然故
	將然則
カ	ナニ
意	字而字雖有

例

接將然格 梅咲カバ鶯鳴カム  
 接連用格 春過キテ夏來リ  
 往ヲルニ興ナシ  
 接連體格 立ツルヲ知ラズ  
 屢訪ヒタルガ見テ得ズ  
 屢訪而不得見  
 成而不知  
 往而無興  
 春過而夏來  
 風吹ケバ波立ツ  
 風吹故波立  
 梅開則鶯將鳴

ニナガ有雖字意然與トモトドモ畧分輕重不得竟作雖字解或以爲有而字意

再將已上六表區爲普通特別二種

一助詞於動詞形容詞助動詞皆可連續者爲普通否則爲特別命令格已見動詞助動詞之變化表茲不再列

續連通普

然	已	體	連	止	終	用	連	然	將
		ガ	ハモ			ノ	ハモ		
		ナソ	ハモ			ツ	ハモ		
		ト	ニ			マ	ハモ		
		ヨリ	バカリ			ス	ハモ		
		マデ	ノミ			テ	ハモ		
		カ	カ			シ	ハモ		
		カ	カ			セ	ハモ		
		カ	カ			ハ	ハモ		
		カ	カ			ハ	ハモ		

詞連指定指示分量  
 強疑反接  
 詞問動續

續連別特

然	已	體	連	止	終	用	連	然	將
		ガ	ハモ			ノ	ハモ		
		ナソ	ハモ			ツ	ハモ		
		ト	ニ			マ	ハモ		
		ヨリ	バカリ			ス	ハモ		
		マデ	ノミ			テ	ハモ		
		カ	カ			シ	ハモ		
		カ	カ			セ	ハモ		
		カ	カ			ハ	ハモ		
		カ	カ			ハ	ハモ		

指分禁強疑問反動 接續

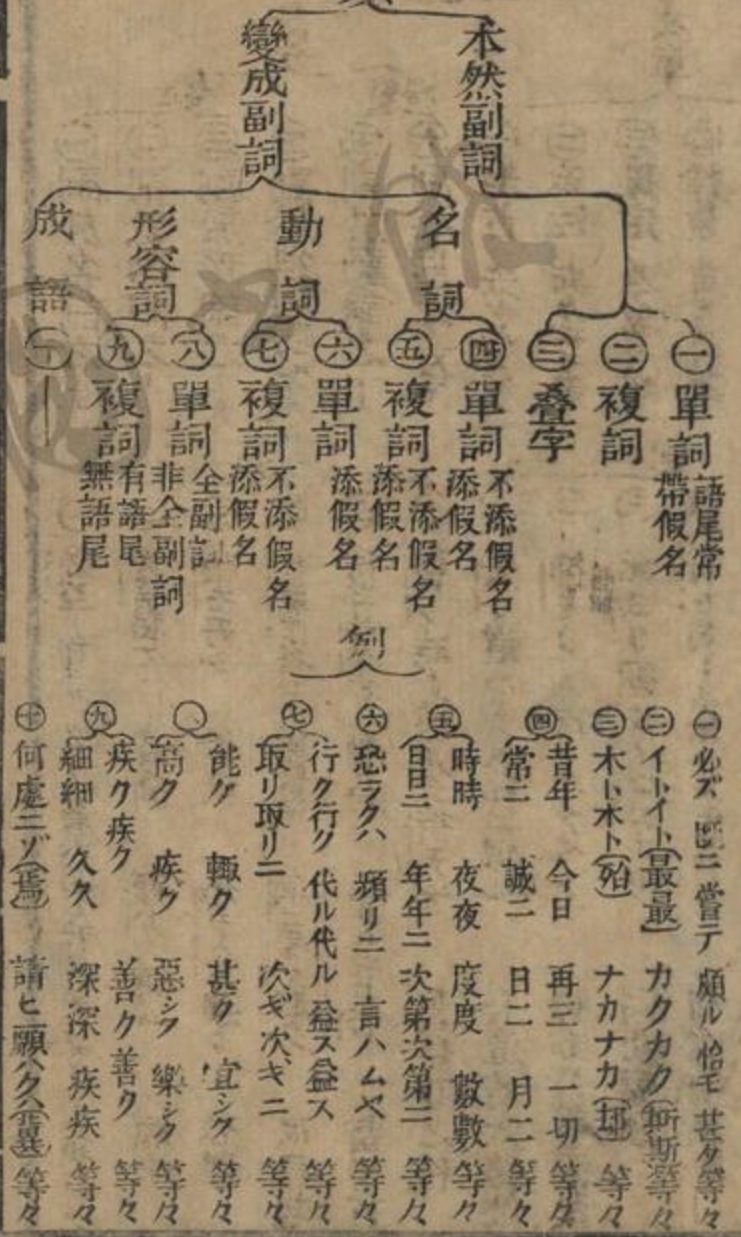
能受使動 四段  
 否定之ネ 否定ラシケレ  
 過去シレ 推量ハケレ  
 過去シカ 比況トケレ  
 動詞能受使動 否定ラシケレ 推量ハケレ 過去シカ 比況トケレ 希望ナム語彙ナリ

副詞

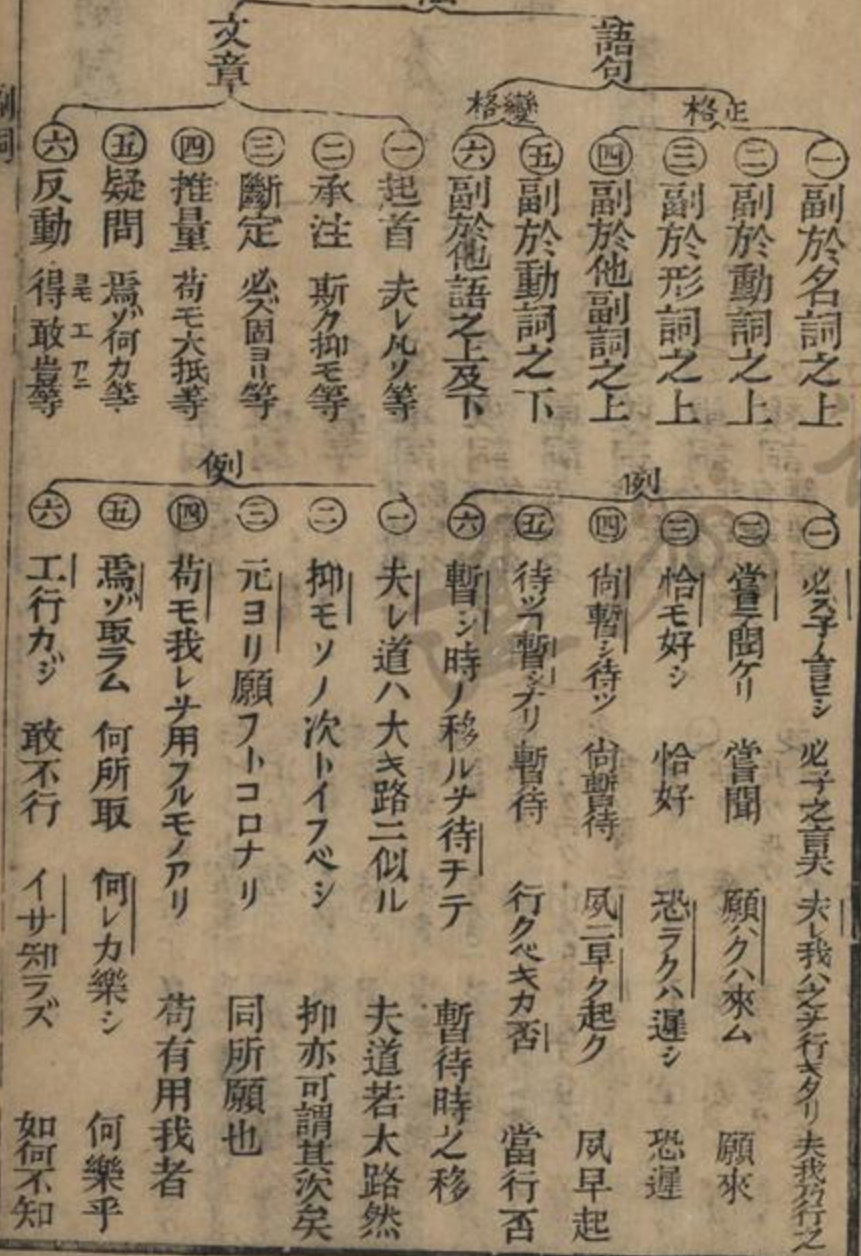
副詞

五十四

種類



用法



### 接續詞

#### 種類

本然接續詞

如ハナホ子即カ  
ツ且マタ又タ  
シ但ハタ將等々

①自代名詞變者

變成接續詞

②自動詞變者

③自副詞變者

其	抑
コニ	於是
於	於
コニ於	於是
何	何
何	何

及ビ	隨テ	尋テ	並ニ	並ニ	就テ	就テ	依テ	依リテ	或ハ	或ヒハ
----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	-----

然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而
然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而
然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而
然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而	然而

### 感動詞

#### 種類

#### 用法

サシカ然也カク斯也皆副詞或添レルニ字蓋與アレアル相連而約之也アレアル訓有若有然有斯之意レ字爲已然格故接バドドモ等字ル字爲連體格故接程所時故等字或徑畧去如サル程ニ作サルニシカル所ニ作シカル二者是

合并 且又及並之類  
承注 於是然則之類  
轉折 却說然而之類  
推翻 雖然之類

#### 例

多クシテ且旨シ  
サレハ同スルトアルカ  
シカシテ亡サルモノ  
シカレドモレハ豈王ヲ吉テハ

多且旨  
然則有同歎  
然而不亡者  
予雖然豈舍  
王哉

句首感詞

ハ	ス	ヨ	メ	イ	イ	ア	ア	ア	ア	
ハ	ス	ヨ	メ	イ	イ	ア	ア	ア	ア	
有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	喜悲恐驚歎奮誘呼 悅哀怖愕賞發起喚

句中感詞

ナ ヌ モ

句末感詞

カ	カ	カ	カ	カ	モ	ナ	ナ	ナ	ナ	ヨ	ヨ	メ	メ	メ	ハ	ハ	ハ
カ	カ	カ	カ	カ	モ	ナ	ナ	ナ	ナ	ヨ	ヨ	メ	メ	メ	ハ	ハ	ハ
有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有

重復感詞 尋常感詞

ハ	ス	ヨ	メ	イ	イ	ア	ア	ア	ア
ハ	ス	ヨ	メ	イ	イ	ア	ア	ア	ア
有	有	有	有	有	有	有	有	有	有

上表アナヤヨカナ  
カモハヤアハヤ等  
々亦重數感詞爲一  
感詞

コイ代名詞サテ接  
詞猶俗言這個那個  
却是等々口頭習慣  
而無感歎神吻者是

感詞與他種詞連續

モ	メ	カ	ナ	ヨ	メ	モ	ナ	ヨ	メ	モ	ナ	ヨ	メ	モ	ナ	ヨ	メ
モ	メ	カ	ナ	ヨ	メ	モ	ナ	ヨ	メ	モ	ナ	ヨ	メ	モ	ナ	ヨ	メ
有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有

名詞  
動形助動詞  
將然連用終止連體已然

接詞

例

句首  
 アナ苦シ  
 イテ御消息聞エム  
 ヌヨ如何ニ行方モ知ラヌ  
 スハ一大事コソ起リタレ

句中  
 雪カモ降レル  
 年ハハ歴ナム  
 心ニナ思ヘ

句末  
 夜半ノ月カナ  
 疾ク行タカシ  
 恨ミツベシナ  
 我ハ待タム也  
 老イニケルヨナ  
 コハ如何ナル事ゾト

重複  
 尋常

嗟苦  
 然請聞消息  
 唉如何行方亦不知  
 惡一大事起矣  
 雪乎降  
 年也將過  
 於心焉思  
 夜半之月哉  
 快行些  
 可恨哉  
 我將待焉  
 已老矣  
 此是如何之事乎

有 意 義 者

接詞義	キ	コ	ナ	ス	マ	オ	オ	イ	イ	イ
例	生絹生紙	小路小高シ	小舟小暗シ	素腹素顔	真心眞白	御代御位	御代御位	幾年幾久シ	逸先逸早シ	彌
接詞義	初	初	貌卑	曲	異	屢	新	暗	諸	僻
例	初學 初立ツ	初春 初音	王老 王老車	曲者 曲事	異國 異人	屢多ク 屢吹ク	新枕 新参リ	木見 木末暗シ	諸手 諸人	僻事 僻讀

接頭語

無 意 義 者

接詞例	サ	シ	ナ	ケ	イ	夕	カ
	山	山	山	山	山	山	山
	雪	雪	雪	雪	雪	雪	雪
	田	田	田	田	田	田	田
	通	通	通	通	通	通	通
	通	通	通	通	通	通	通
	通	通	通	通	通	通	通

### 接尾語

#### 詞形動成接

#### 詞名成接

詞形	動	日數	態情	向方	所處	勢事	釋人	義
久志	久	日	態	向	所	勢	釋	義
久	動	數	情	方	處	事	人	
久	詞	日	態	向	所	勢	釋	義
久	詞	日	態	向	所	勢	釋	義
久	詞	日	態	向	所	勢	釋	義
久	詞	日	態	向	所	勢	釋	義
久	詞	日	態	向	所	勢	釋	義
久	詞	日	態	向	所	勢	釋	義
久	詞	日	態	向	所	勢	釋	義

接他語而爲動詞形容詞其語尾皆有變化

### 接成副詞

#### 假名義

#### 例

#### 直譯

ガテラ	雜出數事	花見ガテラ	二人訪公	看花復訪人
ガテニ	難意	歸リガテニ	別レナ惜ム	爲難歸而惜別
ゴトニ	毎	入ゴトニ	春ゴトニ	人毎言春每逢
ツツ	箇箇	下紅葉	葉ツツ散ル	木ニ落下紅葉葉葉散於木之本
マニ	二任	語ル	マニ	三問ク
ナド	指示大畧	何事	ナド	問フ
カラ	故	相見	カラニ	取リシカラニ
カリ	許所	女ノ	カリ	行キテ
スガテ	至盡	夜	モ	スガテ
スガテ	直從	行ク	スガテ	心
ナガテ	隨且作	御簾	ノ	内
ハカリ	許可程頃	三年	ハカリ	歷テ
コロ	頃	夜	ノ	明
クラ	井位	馬	クラ	井
タケ	分限	是	レ	タケ
ホド	許所程頃	年	ホド	大ナル

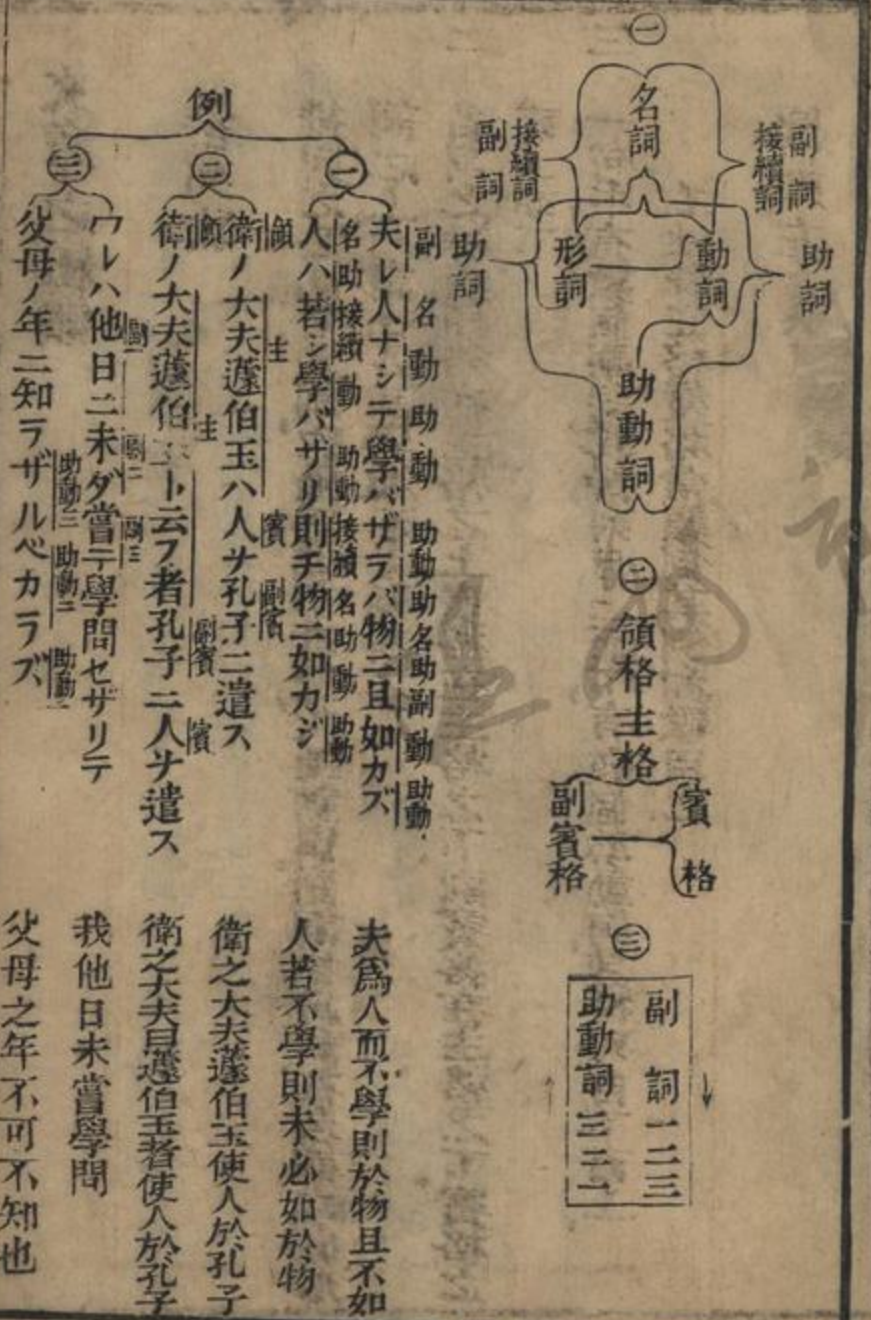
前表ナド直接名詞而添ノナモ等助詞於其下與此表之ナド間接於名詞下直接以動詞者有別副詞中常二誠ニハラハラト等之二與ト亦可謂接尾語

### 文章之組織

#### 排列法

- 一 排列之公例、首名詞、次動詞或形容詞、次助動詞、副詞、接續詞、在名詞或動形詞之上、助詞在名詞與動形助動詞之下。
- 二 名詞之排列、領格在主格之上、賓格在主格之下、副賓格在主格之下、賓格之或上或下。
- 三 一句中有數個副詞、其排列自上而下、有數個助動詞、其排列自下而上、右法係正格、變格常顛倒其例、和歌用之。

圖如左



係結法

係者、上半句所用之助詞也、結者、下半句動形助動之變化、所以結上之係也、法分三類、第一類語氣最輕、第二類畧重、第三類最重、

①	ノガハモ	動	終止格	係
②	ナニトシ	形	終止格	結
③	テバトモ	助動	終止格	結
	ノガゾ	助動	連體格	
	オモツ	助動	連體格	
	コソ	助動	已然格	

重言法

例

① 人ハ恥シキヲ無シベカラズ結 人則不可以無恥

② 人ゾ恥シキ無シベカラザル結 人其不可以無恥

③ 人コソ恥シキナシクサレ結 惟人不可以無恥

重言對單言而名、兩言偶列、各用終止格結者、為兩個單言、不得謂重言、或名之為對語、

一區處變化之格

- 一 重數個用言、而下不接他言者、上數個語尾用連用格、末個用終止格、
- 二 重數個用言、而下接體言者、上數個語尾用連用格、末個用連體格、
- 三 重數個用言、而下接助動詞者、上數個語尾用連用格、末個依助動詞與用言連續表、

重數個助動詞、與重數個用言同法、

二省略公共之語

- 一 省略公共之體言
- 二 省略公共之用言
- 三 省略公共之助動詞



① 小供ハ漢文ヲモ讀ム讀和文ヲモ讀ム讀

② 商ヲ通シ民ヲ殖ス政策ヲ行カム速

③ 琉球ハ西支那ニ對シ西南臺灣ニ近ク助

④ 古ノ歌今ノ歌古キ歌新キ歌有括

⑤ 山ヲ越エ又山越エ行ク省去

⑥ 朝五時起キ夜十時臥ス十時

小子能讀漢文亦能讀和文

欲行通商殖民之政策

琉球者西對於支那西南近於

古之歌今之歌舊之歌新之歌

越山又越山而行

朝當於五時起夜當於

例

叙述法

一叙述人言起用曰ク末用一ト字截止之

二起處不用曰ク至叙述既畢用ト云フ三字表之

一例 孟子ハ梁惠王ニ見ル王曰ク叟ヨ千里ヨリ來ルトテ遠キト云ハ甘リ亦タ我が國ニ利シアラムヤト

二例 孟子ハ梁惠王ニ見ル王ハ叟ヨ千里ヨリ來ルトテ遠キトイハザル亦ハガ國ニ利シアラムヤト云フ

文章之解剖

組織言詞成爲文章解剖文章仍爲言詞二者事雖反對而理實相須也茲節

録讀本中文學之渡來章解剖之如左

昔吾國ニテ文學ト云ヘバ支那ノ學問ノミニ限レルサレド其學問モ直ニ支

那ヨリ吾國ニ來リタルニハアラズ今ノ朝鮮ヲ經テ始テ吾國ニ傳ハリシナリ

今ヨリ一千六百年前應神天皇ノ時三韓ノ百濟ヨリ阿直岐ト云フ人來リテ

皇太子菟道稚郎子ニ經典ヲ讀ムトナシテ其明年博士王仁ト云ヘル人ヲ百

濟ヨリ召シテ太子ノ師ト爲ス此時王仁ハ論語ト千字文トナシレリ是ナシ

那文學渡來ノ始ノナリト言ヒ傳ヘタリ

文章之句讀

句法。

一屬於第一類之係結及其他語氣平常者，皆以動形助動之終止格爲句。  
二語氣稍重，屬於第二類之係結者，以動形助動之連體格爲句。  
三語氣最重，屬於第三類之係結者，以動形助動之已然格爲句。

讀法

一以名詞爲讀

二以動形助動之連用格爲讀

一連用語尾下，不直接用言，而中間一體言者。

二連用語尾下，不直接用言，而中間一副詞或接續詞者。

三連用語尾下，直接用言而語長者。

三以動形助動之連體格爲讀

一連體語尾下，不直接體言，而中間一用言者。

二連體語尾下，不直接體言，而中間一副詞或接續詞者。

三連體語尾下，直接體言而語長者。

四以助詞爲讀

一助詞下接用言

二助詞下接體言

三助詞下接副詞或接續詞

五以副詞爲讀

六以接續詞爲讀

七以感動詞爲讀

八以重言爲讀

九以對語爲讀

再節文學之渡來爲例

昔吾國ニテ文學ト云ハバ支那ノ學問ノミニ限レリ。サレド、其學問モ直ニ

支那ヨリ吾國ニ來リタルニハアラス。今ノ朝鮮ヲ經テ始テ吾國ニ傳ハ

リシナリ。

今ヨリ千六百年前、應神天皇ノ時、三韓ノ百濟ヨリ阿直岐ト云フ人來リ

テ、皇太子菟道稚郎子ニ經典ヲ讀ムヲ教ヘ、其明年、博士王仁ト云ヘル

人、大百濟ヨリ召シテ太子ノ師ト爲ス。此時、王仁ハ論語ト千字文トナ上

レリ。是ヲ支那文學渡來ノ始ノナリト言ヒ傳ヘタリ。

直譯之例

文學之渡來前二節 高等小學讀本

原文見前

譯文

昔在吾國、所謂文學、則限於支那之學問而已。雖然、其學問亦非直自支那來於吾國、經今之朝鮮始傳於吾國也。

自今千六百年前、應仁天皇之時、有阿直岐者、自三韓之百濟來、教皇太子菟道稚郎子讀經典。其明年、召博士王仁於百濟、爲太子師。是時、王仁曾上論語與千字文相傳、此爲支那文學渡來之始也。

直譯之例

留學生 高等小學讀本

原文

中世ノ留學生ハ朝廷ヨリ命セラレテ支那ニ留學セシ者ナリ。是等ノ中ニハ俊秀ノ人固ヨリ少カラズ。高向玄理ハ支那ニ留マルヲ三十三年ニシテ始テ歸朝セリ。唐人學問ヲ直ニ我邦ニ傳ヘシハ此人ヲ始トナス。吉備眞備ハ唐ニアルヲ十八年ニシテ經史ニ通ジ、衆藝ヲ綜心、厯術算數ノ道ヲ學ビ得タリトゾ。阿倍仲麻呂ハ唐ニ留學シテ姓名ヲ朝衡ト改ム。唐主其オヲ愛シテ左補闕ノ官ヲ授ク。次第ニ進ミテ祕書監ニ拜シ、衛尉卿ヲ兼ネ、又左散騎常侍、安南都護ニ擢デラレ、遂ニ唐ニ卒ス。年七十ナリ。後ニ潞州大都督ヲ贈ラレタリ。仲麻呂唐ニアルヲ五十餘年ニシテ榮貴ノ身トナリシモ國ヲ思フノ情已マズ。三笠山ノ歌ハ彼處ニ在リ詠ジタル所ナリ。即チ其歌ニ曰ク

あまの原ふりさけみまをかずあふる

三笠みよまにいでし月つも

朝廷ニテ留學生ヲ置キシ以來海内ノ學生丙ハ大學國學ニ入リテ文學ヲ修メ外ハ唐土ニ遊ビテ彼文學技藝ヲ傳ヘシカバ支那風ノ文學技藝ハ中古一時ハ大ニ行ハレタリキ。

僧徒ノ内ニモ有爲ノ徒少カラズ。僧旻、請安等始テ唐ニ行キテ法ヲ求メシ以來、學問僧ノ渡航續々絶エズ。道昭、玄昉ハ前後ス。唐シテ共ニ法相宗ヲ傳ヘ、最澄ハ救ヲ奉ジテ唐ニ入り、天台宗ヲ我邦ニ傳フ。空海ハ唐ニアルヲ三年ニシテ眞言宗ヲ我邦ニ弘ム。其外唐ニ行キシ者ハ數フルニ遑アラズ。而シテ僧徒ハ佛法ヲ弘布シタルノミナラズ、又大ニ支那ノ文學ヲ我邦ニ弘メタリキ。

譯文

中世之留學生、受命自朝廷、而留學於支那者也。在是等中、俊秀之人固不少、

高向玄理留於支那三十三年始歸朝直傳唐之學問於我邦者以此人爲始吉備眞備在唐十八年而通於經史綜衆藝得學厯術算數之道阿倍仲麻呂留學於唐改姓名爲朝衡唐主愛其才授左補闕官次第以進拜爲秘書監兼衛尉卿又擢爲左散騎常侍安南都護遂卒於唐年七十也後贈潞州大都督仲麻呂在唐五十餘年雖爲榮貴之身而思國之情不已三笠山之歌卽在彼處所詠也其歌曰蒼海之原遠望則數變在三笠之山爲幾何月耶自朝廷置留學生以來海內之學生內入於大學國學而脩文學外遊於唐土而傳彼文學技藝故支那風之文學技藝中古一時大行焉在僧徒之內有爲之徒不少自僧旻請安等始行於唐求法以來學問僧之渡航續續不絕道昭元昉前後入唐共傳法相宗最澄奉敕入唐傳天台宗於我邦空海在唐三年弘眞言宗於我邦其外行於唐者不遑數而僧徒則不惟弘布佛法而已又大弘支那之文學於我邦焉

三笠山歌あま蒼海也ふりさけみき遠望也かず數也のふる變換也也  
名山也いで幾何也也詠歎詞

河



光緒三十年九月



定價大洋肆角

光緒三十年九月印刷  
光緒三十年九月發行

版權  
所有

編輯者 林公任

發行所 溫州府前街 日新書局

印刷所 溫州府前街 汲古齋

温州府 图 卷